

日本ビルマ文化協会報

(創刊号)

発行所
日本ビルマ文化協会
大阪市南区長堀橋筋2-28
電 06-213-5858
発行兼編集人
小谷隆英・保科賢一

特別頒布
ビルマ地図 (1色)
70cm×100cm
価格 250円
申込先
大阪市南区長堀橋筋2-28
日本ビルマ文化協会
振替口座大阪310039
取引銀行
三和銀行日本一支店

日本ビルマ文化協会創立総会 開催

(ビルマ大使臨席)

去る四十七年三月十二日京都市内都ホテルに於てビルマ大使ウ・チッコ閣下臨席の下にその志を同じうするもの約一二〇名参集しいとも盛大且つなごやかな雰囲気の下に開催された。



あいさつするウ・チッコ大使

この会は約二年程前、万国博開催当時にその端を発し、ビルマとの文化交流を通じ、既に両国間に結ばれた友好親善の精神を愈々発展強化しようとする気持を有する者同志の集団で、純然たる奉仕の精神で末長くビルマの為に尽さんと、京阪在住の少数の同志を中心とし之に協力する者多数集い、広く全国的に同志を募集し、その結果創立総会の日迄に入会、協力の意を表明せるもの一七〇名に達し、創立総会の日は目下日本に留学中のビルマ学生多数を招きいとも盛大裡に終戦後この種団体としては初の誕生の声をあげたのである。

想うに本協会の発足は戦後ビルマ関係諸団体が数多く結成された中で、初めてと云って過言でない前向きな奉仕団体として各方面から注目と期待をもって迎えられ衆目注視の中で誠に責任の重大なるものを覚ゆるものである。

駐日ビルマ聯邦
国大使
ウ・チッコ閣下挨拶



駐日ビルマ大使

会長並びにこの会場に御臨席のご婦人、会員の方々、本日はおまねきをいたゞきまして非常に光栄に存じます。
私は日本に参りまして今日で大体一年程になります、この間あち

らこちらと旅行をいたしましたがいちたるところで昔ビルマに居られた親友の方々より盛大なる歓迎を受けました。それは丁度親戚の者が来たか様におもてなしを受けました。そしてこの協会はこの様なビルマに対して特に親しみを持っている所の有力者達に依り組織されております。

又皆様の中よりたくさんの方々が戦後のビルマに來られビルマに没した親友のことを思い出されます。ビルマ側といたしましては皆様のご希望に副うよう出来るだけのことをする様努力して参りましたのでビルマへ行かれました方々は各地で快適な旅を過ごされたことと存じます。

私は既にお送り申し上げました私の「メッセージ」にも言及してありますが本日かくの如く沢山の方々が御出席になっておられるのをみて大変うれしく思います。そして益々この協会が発展せられんことを希望いたします。

只今はビルマ文部省に対し印刷機を頂戴いたしました。ビルマの文部省になり代りまして厚くお礼申し上げます。之等の品物はビルマ人にとり非常に有効に、現在ビルマの国が実施してをります文盲一掃運動に使用されるものと存じます。

日本とビルマとの関係は非常に協力的でありその親しさを毎年々々とそれが厚くなつて行く様な状態にあります。昨日の新聞にて既に御承知の通り両国間の経済協力として、一五〇〇万ドルの借款の

話が成立した事について述べられております。ほんとうのことを申し上げますならば之の一五〇〇万ドル借款の話は昨年十二月ネ・ウイン首相が来日し佐藤首相に会われたとき成立したものであります。この日本よりの借款金はビルマのセメント関係、発電関係、パルプ製造関係の方面に使われるものと考えています、この借款金は今後二十五年の間に返済すればよい様に定められています、勿論利息は支払います。昨日の新聞に報道しているのは一五〇〇万ドルの商品の援助であります。

ビルマはまたマルタパンの沖合で初めて石油の発掘をはじめました。その詳細な調査は日本側の石油開発公団に依り実施されますし、それについても日本政府側より一五〇〇万ドルの借款の約束を得てあります。

之等は大体過去一ケ年間の内に具体化された両国間の経済的な関係であります。

以上の様な具体的な事実よりみて日本とビルマとの関係も容易に想像することが出来ます。
これ以上長々とお話をすることは皆様もお忙しでしょうから省略させていただきます、最後に日本ビルマ文化協会の益々の発展を心から熱望して止みません。
(在日ビルマ連邦政府連絡官、高橋八郎氏通訳に依る)

*
*
*

ビルマ駐在 鈴木大使挨拶



鈴木大使

去る、一月の初め、ビルマの獨立記念日のネ・ウイン議長の招待を受けて来緬された酒井氏より「日本ビルマ文化協会」結成の趣旨及びその動きを拝聴し、誠に時宜に適した企てであると大いに賛意を表した次第であります。

私もかねがね、この国の獨立に深いかかわり合いを持った日本としては、この国の現在及び将来の発展に対し、外交的には勿論、心からの協力を続けて行く道義的責任があるように考えております。

第二次大戦後約三十年近く、激動をつづける国際環境の中で、ひたすら自主獨立の道を歩んで来たビルマの立場は貴重なものであり、今後、アジア及びインド亜大陸の平和に果たす役割は決して少なくないであろうと思っております。それだけになお更日本の協力が必要であると思ひますし、私はビルマの政府及び国民もまたそれを望んで居るように感じ取っております。

その際大切なことは、日本及び日本人の独り善がりを厳に戒めな

ければならぬということではないかと考えます。

ビルマの人々は、勿論、獨立の悲願達成の爲といふことはありましたが、日本軍と共に戦つた結果少なからぬ犠牲を蒙つたにもかかわらず、その仏教に根差す国民性によるものでありましようが、過去の不幸な思い出は忘れて、今日において日本及び日本人に極めて深い親近感を抱いて居るように見受けられます。そこで、我々としても徒らに過去を懐しむというような態度はやめて、兩國關係の現在と未来とを真剣に考うべきであらうと思ひます。その意味では「日本ビルマ文化協会」が目的とし、取り組まんとしているところのものには同感を禁じ得ません。一般にはこの種事業は、その永續性とともに、初心を失なわれない爲にはさまざまな困難が伴なうものであると存じます。

どうか発起人各位及び会員各位のご努力により、設立の趣意が貫徹されることを心から願つてやみません。皆様方の御尽力により、設立趣意書にある通り、次代を背負う、日・緬兩國の若い人々が互いに理解を深め、相携えて日緬兩國の発展、ひいてはアジアの平和に寄与することが出来ますならば、此のビルマの地に屍を埋めた多くの日本人の霊も、日本に協力した少なからぬビルマ人犠牲者の魂もともにその成り行きを喜んで見守つて下さるものと思ひます。

遙かにビルマの地より、貴協会の今後の発展を心からお祈り致します。

昭和四十七年三月一日
ビルマ連邦駐劄特命全權大使
鈴木 孝

正木清 初代会長 挨拶

本日は公務御多忙中にも拘りませず駐日ビルマ連邦国大使ウ・チーコック閣下の御臨席を賜り有難くお礼申し上げます。又遠くラングーンより駐緬日本特命全權大使鈴木閣下より創立を祝つてご懇篤なる「メッセージ」を賜り光栄に余るものはありません、更にビルマ大使館よりは高橋、杉井の両氏が、ビルマよりは留学中の多数諸氏の御参加を得、之厚くお礼申し上げます。

御承知の如くこの会は政治とか思想とか又其他の諸団体とは全く關係はありません。只々戦時中ビルマの方々の温いお心持が今尚ほのぼの郷愁にも似た感じて胸の中にありますこと、且つ亦戦火の為心ならずもビルマの人々に多大の迷惑をおかけしたことに多少でも感謝の気持を持った人々で結成されたものです。

日本には昔より「貧者の一燈」といふ語があります、仏様にお供えするお灯明をお金持が数知れぬ程沢山お供えをいたしましたのが貧しい一人の女の人が一生懸命に働らいてためたお金でやつと一つのお灯明をお供えのことと出来ましたが、然しお金持のお供えした沢山のお灯明は間もなく消え

てしまいましたがこの貧しい女の人のお供えしたお灯明はいつ迄も光り輝いてをりました。

私達は未だ大きな力はありませんが、ビルマの人に対しては役立つことをしたいと念願してをります。この会は誠に「貧者の一燈」と存じます。

この会を我々一代で終らせることなくその子、その孫までも永久に伝えて何日迄もビルマとの友情を伝えて行くことを祈念してをります。

さてこの会にお集りの会員の方々にも一言申し上げたいと思ひますことは、本日の役員選考に際して私を初代の会長に推挙を受け給りましたをご覧の通り年もっており、おまけに神経痛にて歩行も不十分で、謂うならばボンコツ自動車のようなもので到底この重任に耐えないと思ひご辞退いたしました。が、選考委員、副会長其他の皆様が協力してやるから看板のつもりで引受けて欲しいということなので私も看板の積りで引受け致したのです。その看板がこの様に口ほほけており皆様もささかし御不満のことと存じますが一応本会の体制が整う迄出来るだけの努力を続けまして成る可く速に新しい立派な看板にかけ替えていたゞきたいと存じます。

又特にお願ひ申上げたいことは本会はとり敢ず任意団体として発足いたしました皆様同志相談の上なるべく早く社団法人の認可をうけて確固たる基礎の上に立つて仕事をしたいと思ひます。

私達は未だ大きな力はありませんが、ビルマの人に対しては役立つことをしたいと念願してをります。この会は誠に「貧者の一燈」と存じます。

す。之に関しては役員の方々より連絡されますので何卒皆様のご協力をお願い申し上げます。

最後に重ねて申し上げますこの会はいくまで奉仕団体でありましてビルマから何等の利益を得ようという考えは毛頭ありません、この点異々にも皆様のご了承を得たいと思ひます。以上を以て会長就任のごあいさつといたします。

酒井発起人代表挨拶

本日は駐日ビルマ連邦大使ウ・チーコック閣下を始め高橋さん、杉井さんにははるばる遠いところを公務多忙にも拘りませず御参加下さいまして身にあまる光栄と存じ厚くお礼申し上げます。又ビルマより遙々勉強に來られました留学、研修生の皆様ようこそお越し下さいました。

私はいったつて取り得ない男ですが只々私はビルマの方々とのお付合が皆様より古いというだけの理由で発起人代表に無理矢理に推され幾多の困難な障害も乗り越えて今日この如き状態に迄到達し得たことは偏へに皆様方の御協力の賜と存じ深く感謝いたしてをります。関西地区は勿論のこと遠く関東、中国、四国、九州からも馳せ参じ御協力下さいましたことは私達発起人といつたしましては誠にありがたく先程よりなんとお礼申し上げたように、さらに言葉のない程有難く思つてをります。就中関西地区の発起人の方々は連日の様に、特に京都の塔本さん、大阪の多田さんなどは毎日の様に電話

連絡をしたり、泊り込みで御協力下さいまして其間に与えたご迷惑の事を思うとなんとお詫びしてよいやら、感謝の言葉もありませ

次に本日取材にお越し願っている新聞記者の方々に申し上げますが当協会は普通一般の戦友会とは異なりビルマに対し純粋な心の持主ばかりの集りですし又ビルマ側よりの御期待も絶大なるものがある集団でありますので今後共当協会の行末を温く見守り下さいますか御協力下さいます様お願い申し上げます。

日本ビルマ文化協会創立総会

議事録

開催日時 昭和四十七年三月十二日 午後二時半

会場 京都市内 都ホテル 来賓 駐日ビルマ大使 ウ、チッコウコ閣下

同上随員高橋八郎氏、杉井満氏、留学生、研修生ビルマ人、コーコレイ氏外一五名 特別会員 大阪外大 野徹助教授 正会員、賛助会員、同伴家族、当日奉仕者等約一二〇名

総会次第

一、発起人代表酒井栄一郎あいさつ
二、議長団指名山田元八、小菅信

が此等の方々とは万国博当時からの付合で最初はビルマについては何も知らなかったものがお付き合いしているうちにビルマの真のよさが判ってくるにつれ離れられなくなり現在に至りました方達でこの様な方達が逐次増加して行き当会の将来を担うて行つて呉れるのだと思うと之亦非常に有難いことと存じます。

- 一、梅原保、岡本健蔵、森賢
- 三、役員選出に付て説明(岡本健蔵)
- 四、会則及同執行規則審議、議決(梅原保)
- 五、設立準備会決算報告及予算説明(同右)
- 六、役員選考委員指名(山田元八) 委員長 石塚寿男 委員 岩田健二、内田健、山口義春竹、石美代志
- 七、役員決定発表(石塚寿男) 会長 正木 清 副会長 酒井栄一郎、馬淵祐

理事

- 一、小谷隆英、小菅信一、甲谷秀太郎
- 山田政次、栗原栄一
- 石塚寿男、山田元八
- 岩内健二、浅井時二
- 郎、岩田昌男、馬場新平、多田光徳、加藤野忠太郎、森賢、稲垣清、宇仁田邦男、中村源三(常)梅原保(常)内田健(常)保科賢一(常)足達敏夫、稲田栄三、塔本成幸(常)岡本富太郎、岡本健(常)針本英和、長谷川元信、石村卓郎
- 山田親英、吉田弥三郎

監事

八、会長就任挨拶(正木清)

九、創立記念事業として贈呈する贈写輪転機一〇台及附属品一式の目録をビルマ大使に贈呈

一〇、駐日ビルマ大使閣下挨拶(通訳高橋八郎氏)

一一、ビルマ駐在大使館鈴木孝閣下のメッセージ代読披露(山田元八)

一二、祝電披露(司会)

一三、閉会の辞(小谷隆英)

(註) 第二回総会予定を十月二十二日(日曜)と予定すると発表

一四、記念写真撮影

一五、ビルマ大使及随員退場引続き祝賀パーティー開催

一、祝賀パーティー

司会 塔本なるみ

稲垣清理事の挨拶、乾杯、馬淵祐一副会長の挨拶、乾杯、下バマーで散会す



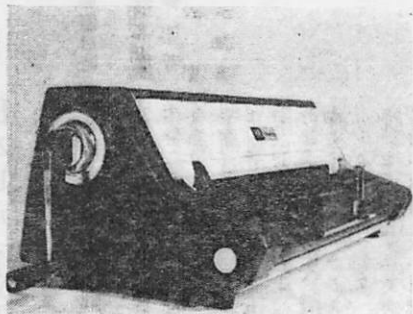
日本ビルマ文化協会創立総会 1972.3.12 於、京都・都ホテル

ビルマ政府文盲一掃運動に協力して当協会の放つ

“協力第一弾”

謄写輪転機

(附属品多量添附) 拾台分



既報の会報にてご承知の如く創立總會当日迄に酒井発起人代表は個人寄附の形にて三菱トンボ鉛筆一四、四〇〇本を過日ビルマ訪問時内地より持参し、又その帰途香港にてランフを五〇〇米ドル分現地調弁の上夫ビルマ政府に寄贈されましたが、今回創立總會開催時特にビルマ国政府文務省副大臣ニイニイ博士等関係者の内意を得て写真に示す如き、謄写輪転機N K、七号型、拾台。

目 手動式自動給紙インキ手塗り 中五七五、高一九七、奥行二六四、重さ、一三、六kg 最大印刷用紙B4サイズ

257×364

速度、毎分一一枚

計数器、四ヶケタ

正価 金四万六千円

ニタカ輪転機用インキ

ニタカ手書用原紙 一打入一〇箱

一〇冊入一〇箱

アジア修正液 二〇打入二〇箱

使用説明書(英文にほんやくしたのもの)若干

を添えて(以上費用総合計金四三万二、三〇〇円)(見当)を贈呈いたしました。

尚以上の諸品は、去る四月二十四日附にて在東京ビルマ大使館一等書記官ウ、チャウ、ミント氏より現品到着受領の礼状が協会宛あり近日船便にてランゲーン向発送せらるる由。

日緬戦友会より

激励の言葉

当文化協会創立に際し日緬戦友会はその会報(四七、二、二九、第六号)の紙上を以て、当協会のとつた勇氣とその行動力に対し賛辞を贈り且その成功を祈る意味の次の様な内容の論説を掲載されました。誠にその内容の一字一句をかみしめ拝読するとき当協会に課せられたその任務の重大さに今更乍ら驚きを大いいたしますと同時に益々この種業務を終生業として邁進すべくその決意を新にするものであります。当協会に対し向けられた、その御厚意に対し当協会々報紙上を借り厚くお礼申し上げます。

日緬ビルマ協会 設立の動き

京阪神地区有志を中心に日本、ビルマ文化協会の設立準備が進められている。去る46年の11月京都で設立準備委員会が開かれ、規約の検討、運動方針、会員の募集要領等の具体案が練られ、来たる3月21日の設立總會で可決承認の上活動に入ることになる。設立の趣意書によると、発足の動機は、大阪外語大学大野先生を中心としたビルマ勉強会のメンバーが、更に歩を進めて静から動へと発展的解消を遂げたものである。日本とビルマの永遠の友好と親善を窮極の目標とし、その目的を達するため、文化の交流を通じて、次代を担う、日本とビルマの若い世代に、その友好の精神を継承発展させ、組織的な民間交流の先駆的な役割を果たそうとする、意欲的な構想である。

このため、大阪外国語大学保存の文献、資料を十二分に活用しながら、講演、資料の頒布による啓蒙、親ビルマムードの啓蒙に努める一方、ビルマ留学生に対する勉学の有効適切な側面的援助を進めながら、文化会館の設立も企画している。すでに全国的規模でビルマ関係戦友会をはじめ各界からの賛同を得て、会友の獲得に努めつつあるが、こうした、民間の自主的創意による文化活動が刺激となり、現

存する親ビルマ団体に統合的気運の波及効果をも期待される向もある。ビルマで戦い、ビルマを愛し、戦友の慰霊を通じて平和日本の建設を指向する各種ビルマ戦友団体が直面している、構成人員の老令化に伴う自然消滅的な限界を如何に克服して、次代に継承していくかといった課題に一つの示唆をあたえるものであろう。各種戦友諸団体は、その情緒的結合を全国的統合化への脱皮をはかるべく客観情勢は熟しつつあるやに思われる。世界が多極化の平和構造を指向しつつある今日、ビルマ関係戦友諸団体が、いつまで核家族的な自

己中心の閉鎖的情緒集団に甘んじている時代ではあるまい。日本、ビルマ文化協会の発足は戦友諸団体の一元化と、日本、ビルマ両民族の国民的規模による交流、親善への契機として受けとめるべきであらう。ビルマに眠る、十八万の英霊に対する真の慰霊顕彰はその大同団結と一元化にある。これは又、生存戦友の責任と義務であることを銘記すべきであらう。又、この大同化こそ、ビルマ国民が望むところであらう。日本、ビルマ文化協会の発足に当り、その勇氣と行動力に賛辞を贈ると共に、その成功を祈ってやまない。

創立總會特別会計決算報告

昭和47年3月12日

収入の部		支出の部	
摘要	金額	摘要	金額
当日会費入 (1人当4,000円)	361,100	会場費都ホテル	282,510
一般会計より	81,260	会場準備費用	17,000
		来賓記念品代	51,000
		招待者交通費	63,600
		總會記念写真	28,250
合計	442,360	合計	442,360

上記の通り報告いたします。

昭和47年4月12日

日本ビルマ文化協会発起人代表 酒井栄一郎

ビルマ留學生ティンチュウ君当日の感想を立派な次の様な日本語にて寄せられました。私は日本に参りまして、日本の皆さんにいろいろとお世話になりましたが、今度はこの方々が皆で協力して、日本ビルマ文化協会という立派な会を設立されましたとは大変喜ばしいことと存じます。

ところでこの会の目的や活動の一つに、私達ビルマ留學生に対する援助という項目があり、皆様のご厚意の程は誠にありがたいものがあります。正直なところ私のがり持たいたしましては私達は確にいろいろの面にて苦しいことは沢山ありますが私達の生活とか、研究については私達同志で何とか解決してやっつけようと思っております。ですからこの協会に對してお願いたしますことは多くの日本人達に、ビルマの歴史や文化、生活様式等を紹介し、日本とビルマの間の相互理解を深めるといふ様な重要な仕事に全力をあげていただきますれば之に勝る喜びはございません。御厚意の程あつくお礼申し上げます。

理事会 (第二回) 開催報告

開催日時 昭和四十七年四月一日

午後二時より

会場 大阪市内、協会本部

参加者 酒井栄一郎、小谷隆英

馬淵裕一、(以上副会長)

梅原保、保科賢一

内田健、中村源三、岡

委任状提出

本健、塔本成幸、(以上常務) 岡本富太郎、森賢、長谷川元信、多田光徳、浅井時二郎(以上理事) 山田親英、吉田弥三郎(以上監事) 正木清、山田元八、石塚寿男、稲垣清、馬場新平、岩内健二、足達敏夫、山田政次、石村卓、加藤野忠太郎、針本英和

審議内容

一、趣意書、会則新規起案印刷の件

現実則して職友中心に会員の新規加入を計り、次に其の子弟家族、遺族、更に一般会員から特に若年層へと輪を広げると云う基本方針を決定。

趣意書作製に当り特に留意強調すべき点は

○可及的速に社団法人の認可を得る為の基金の目途、及純率仕団体たる特性、即ち寄附の必要性を明記す。

○ビルマ留學生、研修生への協力、ビルマ文盲一掃運動への協力等の文化活動を事業とする本会の年度会費は一般経常費以外にビルマ側への協力を必要とする為、年度会費は三、六〇〇円と一般職友会の会費に比較し高い会費になっている点及び更に文化協会としての体面を保ち得るビルマ側への協力を考えるならばこの三、六〇〇円のみには不足で当然出来るだけの別途寄附金を獲得する必要がある

ことを明記する。

二、新会員の獲得に關し有効なる方策に付き種々発言あり、特に若き次の代を担う青年層及遺族に對する獲得要領につき建設的な意見の交換あり。

三、会費の徴集に依りは原則として振込用紙等に依り各自本部宛直達に依るが未収分に關しては新規加入者の第一回の未収分は紹介者が責任を以て徴集し本部へ送り、自後第二回以降の未収分は本部より督促する。将来会の組織が決定整備される様にならば地方毎の責任者に依頼することも考慮する。

四、年度会費は毎年九月より翌年八月迄とする案を再確認す、(即ち現会員が既に納入した三、六〇〇円は四十七年八月迄の会費であり、翌四十八年度会費は四十七年十月頃開催の第二回總會時に納入していただくこととなり)

五、賛助会員の性格は会則に示し通りで、会費を必要とせず、議決権もない、但し入会時に随意寄附をお願いする、尚会合に出席するときは其の都度正会員同様の臨時会費を納入して参加出来る。

六、本部組織を再確認する。

①総務 酒井、岡本健、多田、岡本京、塔本

②広報 梅原、中村源

③広報 小谷、保科、塔本

④事業 馬淵、内田

七、地方組織については現状に則して其の地区の会員数等を考慮

して決定された副会長及理事の内適当な役員に依頼して、当該地方の会員の相互連絡、留學研修生との接触、協力等の会の活動に關し本部の方針に従って連絡拠点的な役割をお願する

事決定、将来各地方、府県に支部単位、組織を置く様に発展した場合に支部長等の役職を設ける事を考慮する。従って当分の間次の役員に当該地区の連絡世話人を依頼することと決定。

。関東地区 甲谷秀太郎(東京中心、関東)

。静岡地区 山田元八(静岡、山梨)

。東海地区 小菅信一(愛知、岐阜)

。三重地区 稲垣清(三重)

尚四国、中国、山陰、九州、地方に關しては追て本部より当該地区会員に直接連絡する。

尚世話人をお願いする主たる事項は次の通り

①地区内の会員相互の連絡交流

②地区内に常住又は旅行すをビルマ人留學研修生並其他のビルマ人との連絡、協力、

本件に對し特に本部からの協力を必要とする場合は本部宛速に連絡する。

③当該地区会員の本会に對する凡ゆる意見等適時取りまとめ連絡

④当該地区新会員の加入促進。

⑤其他

本件に關し、各地区の世話人名を全会員に通知すると共に大使館を通して留學研修生にも連絡

徹底する。

八、本年度の予算案、及事業計画の作製に就ては四月一日現在の經理上の収支決算をしたところその残余金が誠に僅少である為、先ず未納年度会費の完全徴収に努力すると共に新会員の加入促進を図ると共に新会員の加入と同時に役員始め会員有志にお願いして善意の寄附金を募金する必要があると予算案、事業案は後日担当理事が適当な時期に立案し理事会上に提されることとなる。

但し意見として可能な状態になつた場合次の様な事業が考えられる。

(a) 会の基金を集めるための事業
ビルマ民芸品の頒布、会員寄贈品のバザー、地図、日緬会話小冊子頒布等
(b) ビルマ側への協力事業等

新会員獲得に就て益々各位の御努力をお願い申し上げます

物の蔭にもない袖は振れぬとか先立つものは金のたえもありません。当協会も御多聞に洩れず、純然たるビルマに對する奉仕団体である以上資金の入用であるのは当然のこととあります。会員各自の謙出せられるお金を有力なる資金源といたして頂きます關係上、会員は多々益々弁ずであります。然し金を出して呉れる会員は誰でもよいというのではありません。当協会の趣意書に明記してある各条件に完全に一致する新入会員を望んで

いることをお間違ひなく、どうぞ皆様の近辺より然るべき適任者を勧誘し入会をお勧め下さい。
尚この会報がお手元に届く頃には新しく現況に即応する様な趣意書等が印刷出来ておる筈ですので所要のときは本部宛ご請求下さい。

名簿字句訂正

- 。さきにお手元に配布いたしました発起人名簿の中で次の通り訂正下さい。
- 。一頁、氏名森健を森賢に訂正
- 。同 馬淵氏経営会社名KK丹陽商店を丹陽KKと訂正
- 。同 針本氏の自宅電話番号は(〇七)八六三六が正しい
- 。同 土井氏の住所は西島一三一が正しい
- 。二頁 山口氏の事務所の名前は古川橋病院が正しい
- 。同 真野氏の自宅住所は松島町でなく、荻原町串作九一七と訂正
- 。同 浅井氏の自宅電話番号は(〇六)九〇七五と訂正
- 。三頁 細谷氏の自宅住所は菜師寺でなく菜師町が正しい
- 。六頁 浅田氏の事業所は明神青葉協同KK
- 。同 (〇八)六三三三と訂正
- 。六頁 松本氏の住所は灘区でなく東灘区が正しい
- 。同 大岩氏の自宅電話番号は(〇五)三三二六と訂正
- 。同 (〇五)三三二六の電話は(〇五)三三二六と訂正
- 。同 賛助会員名簿中池田氏の事業所

は大谷中高教諭が正しい
左の二名追加記入して下さい

- 。同 13 金田政敏 大阪府高槻市高槻町一1122
- 。同 (〇七)六八五(元)KK金田商店代表
- 。同 (〇六)三三三三(元)酒井氏友人
- 。同 14 小林義男 東京都右京区大森森ヶ東町五一一六六 (〇七)五八七(元) 豊田精機製作所役員

ビルマ留学生訪日並移動

左のビルマ留学生諸君は四十七年四月八日 大阪外大留学生花園寮へ参りました

住所 東大阪市松原南一―四六
大阪外大留学生花園寮
(近鉄東花園下車北へ一五〇〇米花園ラックビ―場東)

TEL (〇七)六六二六

左記

- 。チッスエ。トン・チェ
- 。カウン・ウ。アッソ・ミーン
- 。クワン・ニユ―
- 。次の如く学期末移動がありました
- 。3(16) 研修生 ウ・ソーミーン
- 。同 ビルマ婦国
- 。3(30) 同 ウ・ティンミン
- 。同 ドウチイティアイン
- 。3(31) 同 名古屋転校
- 。同 4(8) 同 キン・モン・チー
- 。同 イ・ティ・ク
- 。同 ソウ・ゾウ・トン
- 。同 ウ・インミー
- 。同 グ・イン・ミン
- 。同 サイ・カ・マン
- 。以上六名酒井鉄工にて研修終了
- 。4/9 東京よりビルマに帰国

計報

ビルマ独立の元老、タキン党指導者、故タキン・ミヤ閣下夫人
Daw Khin Nyunt さんが去る三月二日永眠されました。
又元駐日ビルマ・ミッション団長、現駐英大使館勤務・ウ・セイモン氏夫人は四月十一日英国に於て永眠されました。

併せて謹んで哀悼の意を表します

留学生コーコレイ君の死を悼む



去る三月京都に於る文化協会創立総会にはるる出席し我々と終始にこやかに歓談していたビルマ留学生コーコレイ君は去る四月七年三月一六日突如死亡されました。当協協会といたしましても謹んで哀悼の意を表するため酒井栄一郎氏急拠上京三月十九日午前十一時ビルマ大使館に於るビルマ式法要並に午後三時アシア文化会館に於る日本式告別式に参列(協会よりは花束贈呈)在京の関係者多数参列の裡に厳に執行されました。写真はありし日の同君

お知らせ

「ビルマ戦跡慰霊の旅」
次の如き御案内が当協会宛にありましたのでお知らせいたします

す。細部について知りたいお方は直接旅行団の世話人に御照会下さい。

期日 四十七年十一月十九日より八日間

行先 ランゲーン(計四泊)メ
イミョー、マンガレー(一泊)、チャビユ(一泊)、香港(一泊)

。旅行団の名称 ビルマ戦友会

。同話人(連絡所)

明石市鍛冶屋五六 山口謙存
TEL (〇八)九二二〇元
西宮市神原九一四一四〇一 植田正六
TEL (〇六)六一三三三〇元

費用 二八五、〇〇〇円見当

「ちょっとしたこと」
京都市内のある有名なパン屋さんでは十年前からお客様に渡すパンの包装の表面に世界各国語で「有難う」という言葉が印刷列記されてあり好評を博していたが、なんと肝心のビルマ語で書かれた「有難う」がミスプリントとなつてゐることが幸運にも当文化協会の関係者に依り最近発見され、早速同パン店の経営者に通報いたし正されたところ大変感謝され近々訂正されるとのこと、他人事乍ら一寸安心!!

こと、ビルマに関するところと妙に「カッカッ」してくるところがビルマ狂たる所以か。

ビルマには数多い人種が雑居している、ビルマ人の典型的性格を質問されても答えるのがむずかしい。然し總体的に云つてビルマ人は陽気な楽天的であり、人情に厚い。特に農民は素朴で親切で無欲である。「衣食足りて礼節を知る」という言葉があるが、衣はともかくとして食が保証されているので、あくせくすることは無い。基本的には極めて温和であるが、多血質の面も有している。容貌は色がやや浅黒い点を除けば、日本人そっくりである。町中を歩いていて、日本の親類縁者にそっくりの人を目にする事が多い。

「食事はすみましたか」というのが、ビルマ人の日常の挨拶である。この挨拶が暗示するように、ビルマ人は誰にでも実に気安く食事を出す。ビルマ全土を無銭旅行するのはさしてむずかしいことではない。

ビルマ人は、外国人と接する機会の多い人達か或は外来の教育を受けた人達でない限り、物を貰つたり、便宜を計つてもらつてもありがたうと云うことは少ない。

この為、「ビルマ人は失礼だ」と怒つてゐる外人によくお目にかつた。ビルマ人が感謝の念を口で表現しない理由については、いろいろの説がある。そもそも他人に奉仕した人は、其の行為に依つて仏教上の功德を得ることが出来るし、さらに物を手放すことは所有欲という苦しみを解放されることになる。したがって他人に親切をした人は、むしろその様な機会を与えてくれた相手に感謝すべきであり、親切にされた人が感謝する必要はない、というのが通説である。

ビルマ人気質

ビルマには数多い人種が雑居している、ビルマ人の典型的性格を質問されても答えるのがむずかしい。然し總体的に云つてビルマ人は陽気な楽天的であり、人情に厚い。特に農民は素朴で親切で無欲である。「衣食足りて礼節を知る」という言葉があるが、衣はともかくとして食が保証されているので、あくせくすることは無い。基本的には極めて温和であるが、多血質の面も有している。容貌は色がやや浅黒い点を除けば、日本人そっくりである。町中を歩いていて、日本の親類縁者にそっくりの人を目にする事が多い。

基金並に運営資金

特別寄附者芳名

左記の会員より当協会基金並に運営資金として貴重なお金の寄附がありました。紙面をお借りし厚くお礼申し上げます。

突然之の様な特別寄附金について発表いたしましたことについて皆様は未だご存じないかも知れませんので若干の説明を申し上げます

現在当協会は全員一七六名から醸出されます年額三、六〇〇円の会費のみにて協会運営上の事務経費(特に今回は創立総会には

余剰金を以てビルマに対する諸々の事業を行いつ、ありますが少く共、現在の会員数にては未だした事業は出来ません、まして会費未納の方が相当居られる現況では尚更のことで協会の台所は火の車であります、又この年額三、六〇〇円という会費は次の世代を荷負う

若い会員層にも適合する如くいろいろと勘案いたしましたして創立以前に発表し、一時的に定めた金額でありまして、会員数が近い将来急激に増加し運営資金も潤沢に集まらない限り現在の運営資金の獲得法

については、当協会が純然たる率仕団体であるという特性よりみても再検討をする必要があると考へ四月一日の理事会に於て検討した結果其の必要性を全員一致して認

められました、従つて本件に就ては次会の会員総会に於て正式に承認を得るべく準備中ですが少く共本日の段階に於ては之の特別寄附

金制度は決定事項として発表すべきには尚早と存じておりましたが、今度は逆に一部の会員の方より協会の運営資金枯渇の現況を知り、とり敢ず打開する目的にて幾何かの資金を無条件に寄附申出が申上りまして左記の通り御報告申上げると共に厚く感謝し、これからもこの種の寄附御協力は大歓迎ですので何分共よろしくお願ひ申上げます。

- 一〇〇、〇〇〇円 梅原 保
- 五〇、〇〇〇円 石見藤則
- 五〇、〇〇〇円 阿古瀬夫
- 五〇、〇〇〇円 竹田一雄
- 一〇、〇〇〇円 荒木庄一
- 一〇、〇〇〇円 中川端幸次郎
- 五、〇〇〇円 中村忠夫
- 五、〇〇〇円 伊福満男
- 五、〇〇〇円 金田正敏
- 一〇、〇〇〇円 岡野賢太郎
- 五〇、〇〇〇円 稲垣 清
- 一〇、〇〇〇円 小林義男
- 三〇、〇〇〇円 森井秀一
- 一五、〇〇〇円 山口義春
- 四〇〇〇円 浜北吉雄
- 二八、〇〇〇円 理事会一同
- 七〇、〇〇〇円 小谷隆英
- 五、〇〇〇円 山口 明
- 五、〇〇〇円 浅田昌世
- 三、〇〇〇円 野田昌作
- 五〇、〇〇〇円 足達敏夫
- 五〇、〇〇〇円 甲谷秀太郎
- 五〇、〇〇〇円 稲田栄三

- 一〇〇、〇〇〇円 馬淵祐一
 - 一〇〇、〇〇〇円 塔本成幸
 - 四〇〇〇円 岡本頼信
 - 五〇、〇〇〇円 小森一郎
- (以上合計一、七六八、八〇〇円也)
(四十七年四月一日現在とす、敬称略深謝)
- 昭和四十七年度会費納入者芳名
(即ち四十七年八月分迄の会費とし何れも本年四月一日迄に納入されました方を列記いたしました。未納の方々は本部会計宛至急御送金お願い申し上げます。尚御入金済にも不拘芳名印刷洩れの場合には当方事務取扱者の落度として不悪お許し下さいますと共に是非(一報下さい)
- 平塚実堂、保科賢一、梅原保、桜木敏威、馬淵祐一、内田健、塔本成幸、岡本富太郎、馬場新平、稲垣清、森實、岡本健蔵、針本英和、吉田正二、主井次夫、石塚寿男、酒井栄一郎、井上重四郎、赤坂一登、多田光徳、小菅信一、山田元八、岩内健二、鬼頭忠男、長谷川元信、内村重志、小谷隆英、足達敏夫、甲谷秀太郎、山田親英、高木太郎、竹石美代志、山口義春、伊藤政広、浅井哲、山岸正和、嶋崎仁彦、宇野芳雄、中野正純、岩井正興、石村卓、松田正純、秦健三、牛谷四郎、田中正男、植田正六、加藤竜雄、加藤シユ、垣田二郎、宮内速雄、貝塚佑、中田一郎、加藤真一、相馬猛、中津頼海、村尾晃、稲田栄三、吉川徳、上田天端、岡本頼信、山内豊、河合敏夫、水口憲

- 夫 栗原栄一、西岡直輝、森井秀次、四角一助、勝又広基、山田政弘、岡本正英、石井四郎、大野茂男、岡本正英、田中晴夫、河内弘、田畑忍一郎、山内幸子、太田恒泰明、岡部長太郎、北川弘、吉田勝三郎、浅井時二郎、吉岡和雄、小川啓市、三輪義雄、酒井正一、郭江河、川瀬宗雄、関秀華、浅田昌作、浜北吉雄、松本次郎、小森一郎、松田豊、大岩正一、渡辺一利、八江正吉、小林英子、井上吉蔵、水谷栄一、正木清、伊福満男、岡本久雄、川島慶三、小山隆司、内田節子、桑原真一、小山隆朔、安達栄春、中井卯一、村田良次、溝口功、海野幸夫、林尊、千代蔵、塚本幸一、坪田祐三
- (敬称略深謝)
- (現在五九名の会費未納会員が居られますがいつの場合にも予定会費が未収では業務運営に支障をきたしますのでどうぞよろしく御判断下さい。)
- 尚昭和四十八年度の会費徴収期限は本年の十月と予定いたしております。よろしくお含み置き下さい)

「楽憂斬し」

酒井莞起人代表、感無量、絶句す
当協会の莞起人が去る昭和四十六年秋、中秋の名月の期に初めて相談会を京都銀閣寺に催した時参集する者三十名、何れもビルマにて作戦従軍当時所属部隊を異にし、社会人となつてからもその商売、思想、同志状況も違ふ一面雖もな

最近のニュース短信

・ビルマ農林副大臣ウ・イエ・ゴン氏協会本部を訪問
去る四月十二日農林・水産業界等視察の為来日されたビルマ農林副大臣ウ・イエ・ゴン氏は十四日関西地区視察の為来阪、酒井副会長長の案内で協会本部を訪れ欲談された。ちなみに同副大臣は万博ビルマ政府主席代表として活躍され当時ビルマ館に率仕した職友会員

や商社関係者等、京阪神に知己が多い。十五日に広島を視察、十六日大阪へ空路立より新幹線で名古屋へむかわれたが酒井副会長等が大阪駅でお見送りした。
・ビルマ儲ウ・ウエツ・プラ大儲正来阪
門司の平和バゴダ管長・ウ・ウエツ・プラ大儲正は、河里口氏を伴ひ四月十八日来阪、協会本部を訪れ、酒井副会長等在阪の会員や縁故者が多数集まり同大儲正を囲んで法話を拝聴した。大儲正は目下江里口氏(駒沢大学院卒)京都の田口先生等とパーリー語の研究經典を進めて居られる。同夜は酒井副会長宅に一泊され十九日門司にかえられた。



特別頒布

卓上用日本ビルマ国小旗
(写真参照) (高33cm)
価格 1,500円 千300円
申込先
日本ビルマ文化協会

らは得るところは何もない様な特殊な会を提案し、同志を糾合する為にはいつの時代、社会に於ても其の中心となる人物の人格、思想、識見、経済的能力の如何に係ること大なるものがあるのは論をまたない。幸にしてこの文化協会は其の主脳部に誠に適任者を得、目出度充足の運びに至ったことは誠に喜びに耐えないものがある。

氏の創立時に於る感慨無量たるや誠に想像にあまりあるものを感じます。果して創立総会の席上代表として挨拶された酒井氏は、その挨拶の途中、協力者に対するお礼に言及した瞬間、それ迄押え続けてきた感激が急に堰を切り、涙漑然として下り、暫しその音量、声にならなかつたのは誠に尤もなことでありました。以上三氏のビルマに対し平素懐いていられるその情熱の物凄さは、けだしまれに見るものがあり、家業、家庭を犠牲にして迄も、先ずビルマ留学生の世話にはじまり、次でビルマの為に尽さんとするその情熱のほどはより出るその根源は、通常私程度の普通のビルマを知らない、ビルマを愛する者の計り知れないものがあります。かつてビルマに従軍した酒井、塔本の両氏は当然のこと乍ら、多田氏の如くビルマへは一度も行ったことがない等と聞かされては、果して同氏をしてかくもビルマ熱狂信者たらしめたものは何であつたらうか、私は私なりに思うに、舞台裏の陰の人、多田氏をかくまで協力せし

めたものは、塔本氏、酒井氏の人格とその情熱の然らしむるところなりと推察して、設立準備にあけくればいた三月の初旬、多田氏の御母堂の病氣悪化し、明日をも知れぬ頃、四国迄帰郷することすら遠慮して、自分と与えられた事務局の仕事に邁進されたその態度には只々頭の下る思いがいたします。酒井氏を中心とした首脳陣を取り巻く数多くの協力者の、己を没した協力態度にも又頭の下るものがありました、けだしよい者のまわりにはよい者が集る、のたとえ通り、大阪にあつてビルマ留学生、研修生に対し正に驚嘆すべきお世話振りを発揮しつゝ、多田氏の仕事に協力していただいた岡本富太郎氏、や東京に在つてビルマ留学生の生活を献身的になされる片岡賢太郎氏、創立会場設備準備に当り商売先を離れて協力して呉れた稲田清氏、万博時代からビルマとは深い縁にて結ばれ、ビルマを知らないのに、ビルマ高官に宿舍提供に特別便宜を計られ、又創立会場の交渉に苦心された内田健氏、総会当日は総会に出席する暇もない程縁の下の力持ち々な仕事で会場の整備、監督に黙々として働らいてくれた長谷川元信氏、設立準備には会則立案等に得意の手腕を発揮協力してくれた梅原保氏、総会時なれない司会を無理に押しつけたにも不拘心よく引受け一生懸命努めてくれた馬場新平氏、発起人同志の相談会の席を毎回持ちよく提供していただいた京都、養源院

の平塚実堂氏、や設立後協会の運営資金枯渇しあるその苦境を見兼ねて多額の特別資金を無条件に差出された次の諸氏、梅原保、荒木庄一郎、稲垣清、森井秀一、山口義春、足達敏夫、甲谷秀太郎、稲田栄三、馬淵祐一、塔本成幸、小森一郎、中でも酒井副会長が一〇〇万円也をポンと寄附されたことは特記するに値すること考えます。私達庶民にとつては一財産とも云うべき多額の浄財を寄附されました。以上の如く私の拙い筆に書き上げたら発起人全部を書き上げねばならない程之の数多くの善意の結果この文化協会が誕生いたしましたことは何物にも替え難く誠によろこばしいことと存じます。末筆乍ら最後に万博当時ビルマ、パペリオンにて縁あつて勤務された四人の日本の娘さんが昨年ビルマ訪問、旧知のビルマ人より盛大な接待をうけられた相での四人の娘さんと塔本氏のお嬢さんが総会当日わざわざ昔なつかしい、ロンデーとエンデー姿にて会場のいろゝきましたことを厚くお礼申し上げます。森の石松の「せりふ」ではありませんが、その中で一番肝心な人を忘れてはいませんか。そうでした、その通りでした、私程の者が一番肝心、大切なお方を、今頃申上げて失礼の段々重にお詫が申上げます、さてその人は大阪外国語大学のビルマ語担当

の大野徹先生です。万博当時から私達発起人グループにビルマの文化について講話をしていただきましたが之の講話内容を数人グループで独占するのには惜しい、更に之の文化交流の輪を広げて行こうと思ひ立つたのがそもその初まりでした。おかげ様で之の小さな芽生えがだんだんと大きく育ち今回の如く一応どうにか見られる様にまで成長いたしましたことを今更乍ら有難いと思ひました一杯です。皆様今後共どうぞよろしくお願い申し上げます。(文責 広報担当 小谷隆英)

お願い!!
會員相互の親睦及機微の連絡を密にする目的にて、次回以降の会報誌上に「自己紹介」という欄を設けたいと思ひますので、折返しハガキにて一〇〇字以内で氏名、年令、略歴、出生地、軍歴、家庭状況、商売、勤務先、趣味、特有の技能、抱負、所見等(然るべく取捨選択の上)御記入の上御返送下さいませようお願い申し上げます。

迎 賓 閣
(細川別邸)
名園と大名料理
御来京の折は気軽に立寄
り下さい。万博時ビルマ政
府代表宿舎として御用命賜
りました。
京都市左京区南禅寺下河原
町34
771-2 6 3 4
電(075)- 761-7 0 6 3